



## アイルランド大統領功労賞受賞と ジェンダー研究

愛知淑徳大学 名誉教授 大野 光子

世界がコロナ禍に巻き込まれた2020年の夏、アイルランド外務省から思いがけない連絡があった。アイルランド大統領功労賞にあなたが推薦されているが、決定したら受けてくれるか、ただし世界各国から多数推薦が出ているため、最終的に選ばれるかどうかはわからないが、とのことだった。

改めて、賞について調べてみた。1922年に自由国として独立した後、英国のさまざまな体制や制度を排除し、民主的な国造りを志向してきたアイルランドは、第二次世界大戦中は中立国を貫き、戦後共和国を打ち立てたものの、経済的苦境は1990年頃まで続き、多くの移民を送り出した。全島で人口700万人ほどの本国に対して、世界には7,000万人ものアイルランド系の人々がいると言われ、J.F.ケネディは初のアイルランド系カトリック教徒のアメリカ大統領、現在のパイデン大統領も同じ背景を持つ。

しかし、1990年代の経済繁栄期を迎えると、海外で活動する人々を「グローバル・アイリッシュ」として積極的に本国と繋ぐ方針に転換し、経済発展を目指す一方で、移民やその子孫が誇れるような文化的でリベラルな社会を目指した。そして2012年に、国内に叙勲制度の無いアイルランドで、マイケル・ヒギンズ大統領のもと大統領功労賞が新設された。これは「本国や国外アイルランド人コミュニティのため、長年にわたる優れた功績をあげた国外居住者」を表彰する賞で、毎年世界中から「芸術・文化・スポーツ」「ビジネス・教育」「慈善活動」「共同体支援」「平和・調停・開発」「科学・技術・改革」の各分野で推薦された中から10名余りが表彰される。

11月に入って、世界9カ国から14名の功労賞受賞者が決まったとの知らせが届いた。「アイルランド文学の普及に貢献した」私は、文化・芸術分野では初の日本人で、日本人女性初の受賞者でもあった。50年余り前のアメリカ留学中に知った詩人W.B. イェイツから出発して、現代女性作家・詩人たちの作品と社会的な課題を探求してきた私のアイルランド文学研究が、このような形で評価されようとは夢想だになかったが、かの地の友人たちからも当然の榮譽と祝福され、感動した。すでに私は国際アイルランド文学協会日本支部長や委員の役割を辞しているし、精魂込めた拙著『女性たちのアイルランド』（平凡社、1998年）や『ファラオの娘：ヌーラ・ニー・



授賞式の公式写真（アイルランド外務省提供）

ゴーノル詩集』（思潮社、2001年）も絶版になったが、ネットで購入したという新しい読者に出会えているのが嬉しいし、目下は共訳書『まるで魔法のように：ポーラ・ミーハン選詩集』（思潮社）の刊行に向けて励んでいる。

ジェンダー研究では、1994年に名古屋市海外女性派遣団団長としてアイルランドの女性政策等を視察した縁で、2003年に東海ジェンダー研究所がアイリッシュ・タイムズ紙記者キャロル・コルター氏を招き、講演していただいた。その後アイルランド社会のリベラル化と女性の進出は目覚ましく、2020年に一人当たりGDPでは世界第3位（日本24位）、ジェンダーギャップ指数は世界第7位（日本121位）と小国ながら健闘している。ブレグジット後はEU内唯一の英語国となり、国際政治においては人権と平和主義を主張しつつ、海外から多様な人々を受け入れたグローバルIT産業の集約地ともなって、アイルランドは存在感を増しつつある。

コロナ禍のため2020年の授賞式は延期され、2021年12月ようやく大統領府で挙行と決まった2年合同の授賞式に出席するため、私は3年ぶりのダブリンに赴いた。首相や外務大臣や大統領夫人も列席する晴れがましい式典の舞台上で、詩人でもある大統領から授与されたのは「アイルランドへの窓」と題する木目も美しい表彰盾だった。勲章や賞金ではなく、出会った全ての人がお礼とともに祝福してくれたこの賞こそ、心のこもったアイルランドの贈り物と深く感謝している。

# 持続可能な社会開発と エンパワーメントをめざして

—ネパールのダリット女性グループの活動事例から—

青木 千賀子 (元日本大学国際関係学部 教授)

コミュニティを基盤としたネパールの女性グループによるマイクロファイナンス（Microfinance：小口金融、以下MF）の活動が、持続可能な社会開発にどのような役割を果たし、女性たちのエンパワーメントに繋がられるか、筆者のフィールドワークによる事例研究から探索する。MFは貧困緩和を目的として、無担保で少額の事業資金を貸し付ける小口金融支援制度である。ネパールでは女性グループを中心に毎月の集金、貯蓄や貸出活動を通して、養鶏、養豚等の飼育や野菜栽培、店の開設等により所得創出を図り、生活不安の軽減にMFを役立てている。聞き取り調査はダリット（Dalit）女性を対象に、2009年から2019年までネパール西部から東部に至る32の地区で実施した。

ネパールは国民の81.3%（2021：外務省）がヒンドゥー教徒で、世襲的な身分制度であるカーストによる差別を法で禁止している。しかし、今でも異なるカースト間結婚をタブー視しているため、階層化や女性に抑圧的に働く慣習が生活文化の中に根強く残っている。カースト制度の最下層に置かれたダリットは被差別集団に属し、社会の底辺労働を担っている。特に、売春を職業として宿命づけられているバディ（Badi）カーストは、ダリットの中でも最下位に位置付けられている。ネパール政府は2010年に「売春の仕事を禁ずる」という通達を出したが、代替の仕事がなく、生計を立てるために今も継続しているコミュニティがある。

このバディコミュニティの女性たちと筆者との話し合い（グループに原資の貸与／支給を含む）で、2012年よりMF活動を開始した。最初は養鶏プロジェクト、2013年より養豚プロジェクト、店の開設等を開始した。活動の実績を積んで、2017年にNGOの協力を得て行政にグループ登録ができた。その後は、政府主催の異なるカーストとの混合研修の参加や、多くのNGOとの連携が可能となった。このことが抑圧され周縁化されてきた女性たちに



ジャバのダリット女性グループのみなさんと  
前列右から2番目が筆者

自信を持たせ、差別解消や社会規範の見直し、ひいては自らのエンパワーメントに繋がった。

MFの活動を持続的に推進していくためには、協同行動の基本となる「信頼」「規範」「ネットワーク」が必要になるが、この目に見えない資源をソーシャル・キャピタル（Social Capital：社会関係資本、以下SC）という。このSCの概念が注目されてきたのは、1990年代で、その大きな契機となったのは、アメリカの政治学者ロバート・パットナムの著作である。MFの活動により、貸出・返済のルールでグループ内の「規範」が醸成され、各々の意思決定の経験を通して、メンバー間に「信頼」関係が構築され、「ネットワーク」による情報・機会へのアクセスの増加から、他地域の女性グループやNGO、行政機関との連携が可能となった。MF活動とSCは、互いに他を高めていくシナジー（協働、相乗）関係にあることが明らかになった。

ネパールにおけるコミュニティと社会構造の問題は、カースト制度による階層性やジェンダーに基づく差別や貧困、そして地域間格差の問題と深く関連しており、持続的なコミュニティ開発には、参加型のMF活動を通してSCの役割が大きいことが明らかになった。社会開発には、グループ内のキーパーソンが存在が重要であり、リーダーの資質が、組織強化の上でも開発の鍵を握る。こうした活動から引き出される個々人の潜在能力の拡大は、生活改善、貧困削減、女性の地位向上、さらには人権や平等意識を醸成し、持続可能な社会開発への道を切り拓くものと考えられる。

# 2022年度事業計画

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

## 1 ジェンダー問題に関する調査・研究

2018年度～2020年度に第2期プロジェクト研究会(研究テーマ:「ジェンダー研究が拓く知の地平」)を実施し、2021年度は各研究員が原稿を執筆した。本年度は編集を進め、第2期プロジェクト研究会の研究成果として書籍を発行する。

## 2 ジェンダー問題に関する研究への助成

### (1) 個人研究助成

若手研究者を対象に、ジェンダー問題に関する研究計画を公募する。

研究テーマは、従来通り「自由論題」で募集する。

- ・募集期間 2022年4月15日～5月末日
- ・募集人数 若干名
- ・個人研究助成審査委員会を開催し、受託者を決定する。
- ・受託者には、①翌年度の個人助成受託者報告会への参加  
②所定の期日までに研究報告書の提出を義務づける。研究論文は年報『ジェンダー研究』に投稿することができる。

### (2) 団体研究助成

団体を対象にジェンダー問題に関する研究計画を公募する。募集は単年度ごとに行い、分野を問わない。

- ・募集期間 2022年4月15日～5月末日
- ・募集団体 若干団体
- ・団体研究助成審査委員会を開催し、受託団体を決定する。
- ・助成を受けた団体には、所定の期日までに①研究活動報告②収支決算実績報告書の提出を義務づける。

## 3 ジェンダー問題に関するシンポジウム、フォーラム等の開催

- (1) 財団法人設立25周年を記念して国際講演会を開催する。
- (2) 個人助成受託者報告会を開催する。
- (3) ジェンダー問題に関する講座を開催する。
- (4) 賛助会員の交流の場として、「賛助会員のつどい」を公開して開催する。

## 4 ジェンダー問題に関する年報、ニュースレター及び書籍の発行・出版

- (1) 年報『ジェンダー研究』第25号を発行する。  
構成は、依頼論文・公募論文などとする。
- (2) 東海ジェンダー研究所の広報紙としてニュースレター『LIBRA』を位置付け、年3回発行する。
- (3) 財団法人設立25周年を記念して25周年記念誌を発行する。

## 5 ジェンダー問題に関する資料・文献の収集と情報提供

- (1) 研究図書・ジェンダー問題研究推進に必要な図書等の購入、寄贈図書の受入
- (2) 研究動向・研究情報ニュースの収集(関係諸機関との提携等による)

## 6 セミナー室の貸出

ジェンダー問題に関する研究会・研修会の利便に資するため、登録団体にセミナー室を貸し出す。

## 7 共催、後援及び他団体との連携

- (1) 名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ(GRL)の運営と発展に、GRL運営小委員会等のメンバーとして関与する。また、東海ジェンダー研究所借用のGRL会議室をジェンダー問題に関する研究会等に利用する。
- (2) 他団体から申し出があれば、検討の上、共催事業の開催や事業の後援を行う。
- (3) (公財)あいち男女共同参画財団との連携を図るため、理事会及び「あいち女性連携フォーラム」に参加する。
- (4) 「名古屋市男女平等参画推進会議」(イコールなごや)に参加する。

## 8 ジェンダー問題に関する意識の啓発・普及を増進させるための内外の機関又は団体への援助

名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリへ2022年度分の運営資金を寄附するとともに、図書・資料の寄贈を継続して行う。

公益財団法人東海ジェンダー研究所

### 2022年度 理事・監事・評議員名簿

役職名	氏名	所属	役職名	氏名	所属
代表理事	西山 恵美	元愛知学泉大学教授	監事	鳥 けい子	税理士
業務執行理事	日置 雅子	愛知県立大学名誉教授	監事	榮枝 るみ	税理士
理事	青木 玲子	元国立女性教育会館客員研究員	評議員	香川 せつ子	西九州大学名誉教授
理事	新井 美佐子	名古屋大学大学院准教授	評議員	佐藤 俊郎	環境デザイン機構 代表取締役
理事	石田 好江	愛知淑徳大学名誉教授	評議員	杉本 貴代栄	特定非営利活動法人 「ウイメンズ・ボイス」理事長
理事	小川 真里子	三重大学名誉教授	評議員	萩原 久美子	桃山学院大学教授
理事	尾関 博子	元名古屋市職員	評議員	的場 かおり	大阪大学高等共創研究院 兼 大学院法学研究科教授
理事	武田 貴子	名古屋短期大学名誉教授	顧問	水田 珠枝	名古屋経済大学名誉教授
理事	別所 良美	名古屋市立大学名誉教授	顧問	安川 悦子	名古屋市立大学名誉教授

(2022年7月1日現在)

## お知らせ

### 中田照子さんご逝去

東海ジェンダー研究所顧問の中田照子さんが、2022年4月5日にご逝去されました。

当研究所設立当初から、長年にわたり当研究所へご尽力を賜りました。

ご生前のご厚情に深く感謝しますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

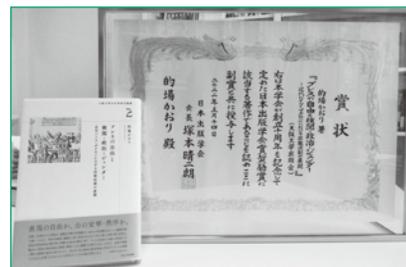
#### 追悼の言葉

当研究所の顧問の中田照子さんが2022年4月5日に永眠されました。87歳でした。中田さんは、研究所の設立準備段階からの中心メンバーで、1997年財団法人設立時の発起人の一人です。2018年まで常任理事として(2004～2012事務局長)、様々な委員に所属、企画・運営に貢献いただきました。とりわけ、『資料集 名古屋における共同保育所運動 1960年代～1970年代を中心に』(日本評論社、2016)(2018年度日本保育学会保育学文献賞受賞)の発行に当たっては、資料の収集と編集に尽力されました。永年の貢献に感謝し、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

当研究所代表理事 西山恵美

### 受賞おめでとうございます

当研究所の評議員、的場かおりさん(大阪大学高等共創研究院 兼 大学院法学研究科 教授)が、第43回日本出版学会賞奨励賞を受賞されました。2021年3月に出版された『プレスと検閲・政治・ジェンダー—近代ドイツ・ザクセンにおける出版法制の展開』(大阪大学出版会)に対する賞です。5月14日(土)の同学会の総会において、授賞式が行われました。おめでとうございます。



### 個人助成受託者報告会

2020年度と2021年度の個人助成受託者6名による、研究の中間報告です。

日時 7月16日(土) 12:25～17:00(受付開始12:10)

会場 東海ジェンダー研究所 6F セミナー室

※詳細は、ホームページでもお知らせしています。

### 財団法人設立 25周年記念 国際講演会

日程 9月10日(土) 13:20～16:30

講師 ロンダ・シービンガーさん  
(米スタンフォード大学歴史学部教授)

会場 名古屋国際センター別棟ホール

同時通訳付き。

※詳細が決まりましたら、チラシやホームページでもお知らせします。

## 賛助会員を募集しています。

賛助会費 年間 一口 1,000円

振込先 郵便振替口座 00820-0-77338

公益財団法人東海ジェンダー研究所

(振込手数料は当方負担ですが、2022年1月より、現金での振込には別途手数料がかかります。)

#### 他行からお振込みの場合

銀行名 ゆうちょ銀行

店名 〇八九

預金種目 当座

口座番号 0077338

(振込手数料はご負担ください)

\* 会員の皆様には当研究所の年報『ジェンダー研究』やニュースレター「LIBRA」、講演会などの事業のご案内をお送りします。

\* 当研究所は公益財団法人の認定を受けており、会費及び寄付については税法上の優遇措置があります。

### 編集後記

大野光子さんのアイルランド大統領功労賞受賞、おめでとうございます。この賞は、独立後の苦難の歴史から生まれた、意義深いものなのですね。一方ネパールでの長年の調査による詳しい現地の様子、マイクロファイナンスが抑圧された女性たちに及ぼす影響や課題も興味深いものでした。成果が上がっていくことを期待したいと思います。

LIBRA

公益財団法人 東海ジェンダー研究所

〒460-0022 名古屋市中区金山1-9-19 ミズノビル6F

TEL 052-324-6591 FAX 052-324-6592

E-mail info@libra.or.jp https://www.libra.or.jp/